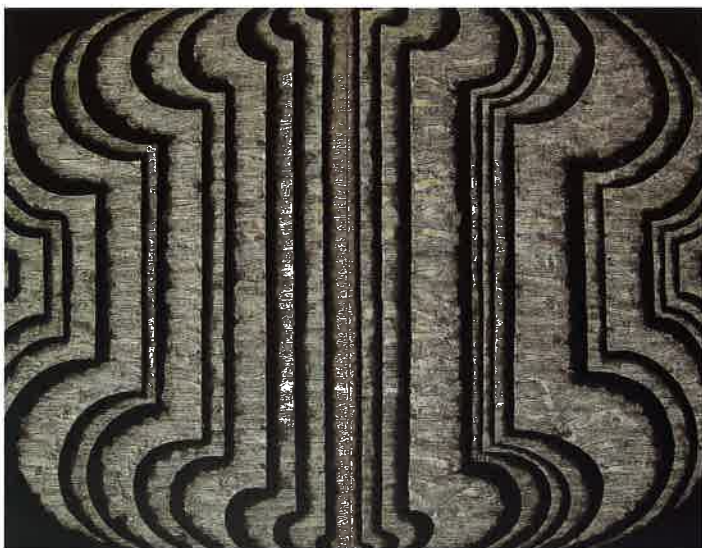




入野忠芳「裂罅」1976年 1818×2273mm 油彩



香川龍介「連」1993年 1120×1455mm 油彩



田谷行平「agape」2015年 1818×2273×50mm 鉛筆、墨、アクリル

入野忠芳
香川龍介
田谷行平

入野 忠芳 香川 龍介 田谷 行平

入野忠芳の遺作とともに

2015年
6月4日(木) [月曜休館]
▶ 7月12日(日)

泉美術館 第1・第2展示室
[広島市西区商工センター2-3-1 エクセル本店5階]

- 開館時間
10:00~17:00 [入館16:30まで]
- 入場無料

主催 公益財団法人 泉美術館、中国新聞社
 後援 広島県教育委員会、広島市、広島市教育委員会、
 NHK広島放送局、中国放送、広島テレビ、
 広島ホームテレビ、テレビ新広島、
 広島エフエム放送、FMちゅーピー76.6MHz

ヒロシマ 70

入野忠芳・香川龍介・田谷行平

入野忠芳の遺作とともに

戦後70年の展覧会として、「ヒロシマ70—入野忠芳・香川龍介・田谷行平/入野忠芳の遺作とともに」を開催いたします。本展は、被爆経験のある3人の洋画家たちによって、戦後50年を機に立ち上げた企画展「ヒロシマ50」(1995年)、さらにその10年後に開催された「ヒロシマ60—消失と生成—」(2005年)に続く展覧会です。戦後広島の中核的存在である、入野忠芳(1939~2013)、香川龍介(1932~)、田谷行平(1942~)。2013年に逝去した入野の遺作を中心に、その遺志を継承するべく、香川・田谷は新作を出品して本展に挑みます。

原爆投下後「70年は草木も生えぬ」と言われたヒロシマ。戦後70年目の節目に、「生命の尊厳」「平和の大切さ」を改めて問いかけます。

ヒロシマ50から70へ

「ヒロシマ50」は、広島に生まれ広島で制作を続ける3人の画家が、戦後50年を契機に「自らの芸術を検証し自身に問いかける試み」でした。1995年8月8日~11月10日まで広島県内の6会場を巡回し、段ボールを座布団にして作家と参加者が同じ目線で対話をするギャラリートークは話題となりました。続く「ヒロシマ60」(2005年12月6日~12月11日・県民文化センター)は、「消失と生成」のテーマで開催。それは「消して描き、消して描き」をつみ重ねる3人の制作の共通点であり、画家がみえてきた戦後ヒロシマの印象でもありました。

95年当時、入野は「作品は自分自身への問い掛けであり、観る人への問い掛けでもある」と語ります。その答えの無い問いは、入野の遺作とともに「ヒロシマ70」に継承されます。



「ヒロシマ50」会場風景(撮影・ギャラリートーク)



「ヒロシマ60」会場風景

講演会のご案内

「ヒロシマ70を語る」

2015年6月4日(木) 午前11時~

参加無料 ● 予約不要 ● 定員 100名

講師 | 寺本泰輔 [美術評論家・元呉市立美術館館長]
香川龍介 田谷行平 [ともに本展作家]

会場 | 泉美術館 エントランスホール



JR山陽本線
「新井口駅」から
徒歩約10分

広電宮島線
「草津南駅」から
徒歩約7分

駐車場無料
(エクセル本店の
駐車場をご利用
下さい。)

公益財団法人 泉美術館

〒733-0833 広島市西区商工センター2-3-1 エクセル本店5階
TEL 082-276-2600 FAX 082-276-2612
HP <http://www.izumi-museum.jp/>